

日々の努力で夢をつかむ

「応援してくれている方のためにも、試合で良いプレーができるよう、しっかりと準備することを大切にしています」と野球に対する姿勢を教えてくれた小原さん。

野球を始めた小学生のころから、所属していたチームの練習だけではなく、自主的に走り込みや素振りなどの練習を重ね、レギュラーを勝ち取ってきた小原さんは、中学生の時に札幌ドームで観た女子プロ野球の試合をきっかけに、この世界を目指したといいます。

高校時代に挑んだ女子プロ野球入団テスト。合格とはならなかったものの、将来性を見込まれて育成選手となった小原さんは、同じ夢を持つ仲間と切磋琢磨する日々が、プロ野球への思いをより強くしたと語り、「自分の実力ではこ



▲力強い投球を見せる小原選手

の世界で戦っていけないと自信をなくしたこともありましたが、家族の支えがあったからこそ、育成選手として練習に力を注ぐことができ、今の自分につながっています」と当時を振り返ります。

昨年9月には、シーズンの順位が決まる大切な試合でプロ初勝利を飾った小原さん。「前日の試合で登板した時に打たれていたのですが、再度登板の機会を与えてもらい、重い責任を感じながら、成果を出すことができました」と投手としてのやりがい語ってくれました。

女子プロ野球をもっと盛んに

女子硬式野球部のある高校が周囲になく、道外への進学も考えたという自身の経験を振り返りながら「女子選手にとって野球を続けやすい環境が広まり、『女子プロ野球』が、皆さんにとって当たり前のもになるよう、自分も頑張りたいです」と話す小原さん。

「たくさん努力や練習を重ねて、諦めずに取り組めば、それが自信につながり、一歩ずつ夢に近づけると思えます」と、目標に向かって頑張る子どもたちにエールを送ってくれました。



KIRARI

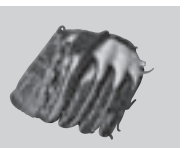
お ばら み なみ
小原 美南さん
(愛知ディオオーネ所属)

皆さんは、『女子プロ野球』を観たことはありますか。今年でリーグ創設10年目を迎え、現在、4球団で計71人の選手が活躍しています。

学生時代から野球に打ち込み、プロ野球選手になるという大きな夢をかなえた小原さんの持ち味は、キレのあるストレートと変化球を生かした緩急あるピッチング。

今号では、投手としてチームに貢献する小原さんに、女子プロ野球の魅力について伺いました。

たくさんの人に応援してもらえる選手に



平成9年、登別市生まれ。21歳。

小学1年生の時に兄の影響で野球を始め、登別明日中等教育学校時代には『室蘭リトルシニア』、札幌市のチーム『ホーネッツ・レディース』に所属。高校卒業後、女子プロ野球の道へ。育成選手で構成されるチーム『レイア』で2年間腕を磨き、2017年、女子プロ野球入団テストに合格し、愛知県に本拠地を置く女子プロ野球チーム『愛知ディオオーネ』に所属。